

## 的確なタイミングと人選で 役立つ講演を開催していきたい

### 概要

全会員を対象に、経済・社会・文化など、幅広いテーマに関する講演会を企画、実施。

運営委員12名（委員長2名含む）（2月12日現在）  
（インタビューは1月24日に実施）

### 委員長 斎藤 博明

TAC  
取締役社長

1951年宮城県生まれ。75年東北大学経済学部卒業。78年公認会計士第2次試験合格後、東京アカウンティングセンター入社。80年TAC（旧称：東京アカウンティング学院）を設立し代表取締役社長に就任。99年2月経済同友会入会、2001～2002年度および2007年度より幹事、2003～2006年度副代表幹事。99～2000年度企業経営委員会常任委員、2001～2002年度企業経営委員会副委員長、2002年度憲法問題調査会副委員長、2003年度魅力ある日本の再生と総合戦略を考える委員会委員長代理、教育の将来ビジョンを考える委員会委員長代理、企業競争力委員会常任委員、2004年度新事業創造委員会委員長、2005年度新事業創造推進委員会委員長、2006年度格差を考える委員会委員長、2007年度会員セミナー委員長。



### 委員長 山岡 建夫

JUKI  
取締役会長

1940年東京都生まれ。62年慶應義塾大学商学部卒業後、富士銀行（現みずほ銀行）入行。66年退行後、東京重機工業（現JUKI）入社。同年11月に取締役、73年常務取締役、79年代表取締役専務、83年代表取締役社長、99年代表取締役会長に就任。85年経済同友会入会、96年度より幹事。97～2000年度ロシア委員会副委員長、2001年度日本ロシア・CIS交流委員会副委員長、国際問題委員会副委員長、2002～2005年度日本ロシア・CIS交流委員会（2004年度より日本ロシア・NIS交流委員会に名称変更）委員長、2006年度会員委員会副委員長、2007年度会員セミナー委員長。



### “実際の言葉”は臨場感が違う。 多くの会員に出席してほしい

**斎藤：**会員セミナーは、経済同友会の全会員を対象にした講演会として実施しています。2007年は国内・国際に関する経済をテーマにした講演を数多く開催しました。この世の中がどうなっていくのかということに対する関心は高く、たくさんの方に出席していただきました。また、そのほかのテーマ、委員会活動にはないテーマも取り上げるようにしています。例えば、三浦雄一郎氏（プロスキーヤー、1月29日講演）や日野原重明氏（聖路加国際病院理事長、2月7日講演）のような、個人の生き方としてとても魅力的な方の講演というのは、会員セミナーならではの講演だと思います。

**山岡：**講師の人選は、運営委員からの推薦を受けて検討しており、

「時宜を得た方に適切なテーマで」というのが基本的なスタンスです。この点で、昨年6月7日に実施した新日本製鐵の三村明夫社長の講演は大変貴重でした。買収が話題になっている微妙な時期に、当事者の三村社長から直接お話を伺える機会はそうそうありません。

**斎藤：**やはり、現役の経営者が自らの口で語る言葉には臨場感があります。三村社長の時は、本当に絶妙のタイミングだったと思います。当事者たる経営者から、“どう考えどう行動したか”を聞けることは、非常に有効なサジェスチョンになります。

**山岡：**去る12月17日、中前忠氏（中前国際経済研究所代表）の講演も印象的です。サブプライムローンが世界経済に与える影響がテーマだったのですが、極めて衝撃的な内容でした。米国発の世界同時不況、さらに、今年と来年の見通

しについてかなり暗いという指摘がありました。会場との質疑では「悲観的すぎるのではないか」という意見も出たほどですが、12月から現時点までに起きていることは、ほぼ講演の内容通りです。

**斎藤：**12月時点で正鵠を射た見解を聞いたことは、実に有益でした。講演を聞いて対策をとった方もいらっしゃると思います。私は以前、会員セミナーの熱心な出席者ではなかったのですが、今は、出席すればその分だけ得るものがあると感じています。

**山岡：**私も同友会の会員で良かったと思っています。委員長としては、皆さんにも同じように感じてもらえるよう、がんばっています。『会員セミナー通報』は的確にまとまっていますが、やはり活字と実際では得られる情報が違います。できるだけたくさんの会員に出席してもらえると嬉しいです。